

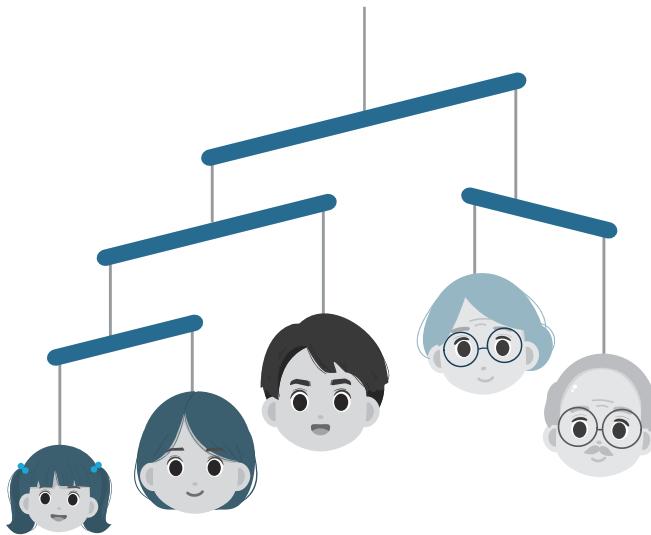
家族コード：

記入年月日：

年 月 日

FSSC-JA

(家族症候チェックリスト)



The Japanese Version of the Family Symptoms/Signs Checklist (FSSC-JA)
© Naohiro Hohashi

使用にあたっての注意

この家族症候チェックリストは、家族同心球環境理論における家族症候学を基盤とし、[家族症候名](#)とその判定状態を参考にすることで家族症候診断を支援するツールです。家族症候は、主観的かつ客観的な家族データにもとづき、看護職者が総合的に査定した[家族の困難状態（問題・課題・困難・苦悩）](#)であり、家族の困難状態を複数の看護職者で共通認識するための共通言語です。

家族症候は、21の主要家族症候群（大分類）で構造化され、それぞれが家族症候分類コード（小分類）に細分化されています。[家族症候分類コード](#)には62の家族症候があり、それぞれの判定状態を参考にして、系統的かつ効果的な家族症候診断を可能にします。なお、[家族症候](#)は4桁の家族症候分類コードで表され、前半の2桁は主要家族症候群です。また、[変形・派生形・追加形](#)を用意してありますので、家族症候名の変更、新しい家族症候名の追加ができます。

本書は、主要家族症候群、家族症候分類コード、判定状態の一覧です。家族症候チェックリストをお使いになる前に、別途用意してあるアセスメントガイドを熟読してください。

主要家族症候群 (分類コードの前半の 2 衝)	家族症候分類コード (4 衝)	判定状態
□ FSS-01. 家族の経済危機・破綻	□ FSS-0101. 家族の収支不均衡による経済危機・破綻	家族の収支不均衡によって経済的困窮に陥り、家族に必要な生活物資が不足している状態
	□ FSS-0102. 家族の財産の喪失による経済危機・破綻	家族の財産の喪失によって経済的困窮に陥り、家族に必要な生活物資が不足している状態
□ FSS-02. 家族の成長に伴う発達力不足	□ FSS-0201. 家族の成長の上向的变化に対する家族の発達力不足	家族員の増員に連動して、家族員に求められる役割の変動ができていない状態
	□ FSS-0202. 家族の成長の下向的变化に対する家族の発達力不足	家族員の減員に連動して、家族員に求められる役割の変動ができていない状態
□ FSS-03. 家族の成長に伴う家族形成の困難	□ FSS-0301. 家族規模の変化に伴う家族形成の困難	家族規模の変化を認識・受容できず、家族を形成（あるいは再形成）することが困難な状態
	□ FSS-0302. 家族構成の変化に伴う家族形成の困難	家族構成の変化を認識・受容できず、家族を形成（あるいは再形成）することが困難な状態
□ FSS-04. 家族の勢力構造の歪曲	□ FSS-0401. 家族の独裁的な勢力構造の存在	特定の家族員の影響力が支配的であり、家族がそれに従わざるを得ない状態
	□ FSS-0402. 家族の勢力構造の編成不調	家族の勢力構造の変化に直面し、家族が勢力構造を柔軟に編成させることができない状態
□ FSS-05. 家族の役割構造の不具合 (瑕 疵)	□ FSS-0501. 家族員の役割の曖昧化	各家族員が担う役割が曖昧になっていて、適切な役割行為が履行できない状態
	□ FSS-0502. 家族員の役割葛藤の発生	家族員が担う複数の役割が両立できないために、葛藤が発生している状態
	□ FSS-0503. 不適切な家族員の役割分担	各家族員が担う役割や負担量が不適切な状態
	□ FSS-0504. 家族員の役割間の連携欠如	各家族員が担う役割の連携がとれていない状態
	□ FSS-0505. 家族員間での役割期待の乖離	家族がある家族員に期待している役割をその家族員が履行できていない状態
□ FSS-06. 家族の社会規範からの逸脱	□ FSS-0601. ファミリーバイオレンス (家族内暴力) の発生	家族内でファミリーバイオレンス（ドメスティックバイオレンス、こども虐待、高齢者虐待など）が発生している状態
	□ FSS-0602. 自傷行為・自殺企図・自殺をした家族員の発生	家族内で自傷行為・自殺企図・自殺が発生している状態

主要家族症候群 (分類コードの前半の 2 衝)	家族症候分類コード (4 衝)	判定状態
□ FSS-07. 家族のスピリチュアルサッファリング	□ FSS-0701. 関係存在に苦しむ家族員による家族のサッファリング	他者から得られる自己の存在が消滅して苦しむ家族員に対して、家族が対応方法を見出せずに苦悩している状態
	□ FSS-0702. 自律存在に苦しむ家族員による家族のサッファリング	自己決定できる自己の存在が消滅して苦しむ家族員に対して、家族が対応方法を見出せずに苦悩している状態
	□ FSS-0703. 時間存在に苦しむ家族員による家族のサッファリング	将来への希望・目標が消滅して苦しむ家族員に対して、家族が対応方法を見出せずに苦悩している状態
	□ FSS-0704. 家族スピリチュアリティの低下	超越次元で家族の存在意義が希薄になっている状態、家族の目的や目標を喪失したり、揺らいでいる状態
□ FSS-08. 家族のソーシャルサポートの未充足	□ FSS-0801. 家族のソーシャルサポートの遮断	家族が必要なソーシャルサポートを受けられていない状態
	□ FSS-0802. 家族のソーシャルサポートの非効果的活用	家族がソーシャルサポートを効果的に活用できていない状態
	□ FSS-0803. 家族に適したソーシャルサポートの不在	家族に適したソーシャルサポートが存在しない状態
□ FSS-09. 家族コンコーダンスの未達成	□ FSS-0901. 家族と看護職者とのパートナーシップの未形成	家族と看護職者とが協働できず、家族が問題や課題への行為方針が決められない状態
	□ FSS-0902. 家族の困難状態(問題・課題・困難・苦悩)への怠惰な取り組み	家族が困難状態(問題・課題・困難・苦悩)に真摯に取り組んでいない状態
	□ FSS-0903. 家族の困難状態(問題・課題・困難・苦悩)への取り組みの家族外部環境への依存	家族が困難状態(問題・課題・困難・苦悩)への取り組みを家族外部環境に委ねている状態
	□ FSS-0904. 家族の困難状態(問題・課題・困難・苦悩)への取り組みの放棄	家族が困難状態(問題・課題・困難・苦悩)への取り組みを放棄している状態
□ FSS-10. 家族レジリエンスの発達不足	□ FSS-1001. 家族問題現象がある中での家族の非建設的な思考	問題現象にさらされた家族がイベントに対する非建設的な思考をもつために、家族機能を向上できない状態
	□ FSS-1002. 家族問題現象がある中での家族の協同関係形成困難	問題現象にさらされた家族が互いに支え合うことができず、家族機能を向上できない状態
	□ FSS-1003. 家族問題現象がある中での家族の現実逃避	問題現象にさらされた家族が現実の状況を受容できず、家族機能を向上できない状態

主要家族症候群 (分類コードの前半の 2 衔)	家族症候分類コード (4 衔)	判定状態
□ FSS-11. 家族内の対人関係障害	□ FSS-1101. 家族員間の表出的関係の不健全	家族員間の表出的関係（情緒的関係）が希薄、密着、消失している状態
	□ FSS-1102. 家族員間の手段的関係の障害	家族員間の手段的関係（相互協力的関係）が構築・維持できていない状態
□ FSS-12. 家族インターフェイス膜の調節の不調	□ FSS-1201. 家族インターフェイス膜の選択性の障害	家族のデマンズ／ニーズを満たす家族資源が分別できず、家族システムユニットと家族外部環境との交互作用が不調になっている状態
	□ FSS-1202. 家族インターフェイス膜の透過性の障害	家族インターフェイス膜の透過性が異常亢進／異常低下することで、家族システムユニットと家族外部環境とが依存関係／孤立関係になっている状態
	□ FSS-1203. 不明瞭な家族インターフェイス膜の存在	家族システムユニットの範囲が不明瞭なため、家族アイデンティティが揺らいでいる状態
	□ FSS-1204. 家族と医療職者とのインターフェイス膜の調節の不調	家族と医療職者間のインターフェイス膜の調節ができていないために、家族が医療職者を活用できていない状態
	□ FSS-1205. 家族環境の変調への不適応・不順応	家族内部環境・家族外部環境の変調に対して家族インターフェイス膜が調整できず、家族がその変調した環境に適応・順応できずにいる状態
□ FSS-13. 家族の看護職者との脆弱な信頼関係	□ FSS-1301. 看護職者に対する不満や不信感の増幅	家族に看護職者に対する不満や不信感が出現・増幅し、看護職者との信頼関係が構築、維持できていない状態
	□ FSS-1302. 過去のトラウマによる看護職者に対する不信感の存在	看護職者との不信経験がトラウマとなり、看護職者に対して強固な不信感をもつている状態
□ FSS-14. イベントに対する不適応反応を生じる家族ビリーフの存在	□ FSS-1401. イベントに対する不適応な感情を生じる家族ビリーフの存在	ある特定のイベントに対して、家族員の不適応な感情を生じさせる家族ビリーフが存在している状態
	□ FSS-1402. イベントに対する不適応な行為を生じる家族ビリーフの存在	ある特定のイベントに対して、家族員の不適応な行為を生じさせる家族ビリーフが存在している状態
	□ FSS-1403. イベントに対する不適応な身体反応を生じる家族ビリーフの存在	ある特定のイベントに対して、家族員の不適応な身体反応を生じさせる家族ビリーフが存在している状態

主要家族症候群 (分類コードの前半の 2 衔)	家族症候分類コード (4 衔)	判定状態
□ FSS-15. 家族の健康セルフケア力の発揮困難	□ FSS-1501. 家族員の健康状態に対する家族の認識不足	家族が家族員の健康状態を認識できず、健康セルフケアを遂行できない状態
	□ FSS-1502. 健康セルフケアを完遂する家族の能力不足	家族の健康セルフケアを完遂する能力が不足しているために、健康セルフケアを遂行できていない状態
	□ FSS-1503. 家族の健康セルフケア力の抑制	家族の健康セルフケア力はあるが、その能力が抑制されて発揮できていない状態
□ FSS-16. 家族の意思決定過程の不調	□ FSS-1601. 家族の意思決定上の葛藤	家族の意思を決定するうえで、家族員間あるいは家族員内に葛藤が生じている状態
	□ FSS-1602. 家族の意思決定力の不足	家族が選択肢のなかから最適なものを選ぶ力が不足しているために、意思決定までに至っていない状態
	□ FSS-1603. 家族の不適切な意思決定	家族が意思決定をしたが、その意思決定が客観的に適切ではない状態
	□ FSS-1604. 家族の意思決定後の葛藤	家族が意思決定をしたが、その意思決定について家族員間あるいは家族員内に葛藤が生じている状態
□ FSS-17. 家族の合意形成困難	□ FSS-1701. 家族員ビリーフに起因する意見対立	対極的な家族員ビリーフを各家族員が抱いているために、家族内で意見が対立している状態
	□ FSS-1702. 家族内の合意形成過程の不調	家族員が相互の意見に納得・了解できず、柔軟に対応できないために家族内で合意形成過程が不調にある状態
	□ FSS-1703. 合意不成立に起因する家族の問題現象の発生	家族内で合意形成ができなかったことが起因して、家族の問題現象が発生している状態
□ FSS-18. 家族内コミュニケーションの障害	□ FSS-1801. 家族内でのコミュニケーション環境の未整備	家族員間でメッセージを共有する意思がなく、家族でコミュニケーションが取れる環境が整備されていない状態
	□ FSS-1802. 相互的コミュニケーションの不調	メッセージを伝える能力や聞く能力が不足・欠如している家族員がいることで、円滑な意思疎通ができない状態
	□ FSS-1803. 悪循環な家族内コミュニケーションパターンの存在	家族内に批判的・攻撃的なコミュニケーションパターンが循環しており、建設的なコミュニケーションが成立していない状態
	□ FSS-1804. 家族内でのコミュニケーションの回避	家族が向き合いたくない話題に関するコミュニケーションを回避している状態

主要家族症候群 (分類コードの前半の 2 衝)	家族症候分類コード (4 衝)	判定状態
□ FSS-19. 家族像の実現困難	□ FSS-1901. 理想の家族像と現実の家族像の乖離による家族の苦悩	家族がイベントに直面することによって理想・希望の家族像あるいは現実の家族像が変化し、両者が乖離している実態に家族が苦悩している状態
	□ FSS-1902. 理想の家族像の喪失	家族がイベントに直面して家族の目的・目標を喪失し、新たに理想・希望の家族像を創造していけない状態
	□ FSS-1903. 現実の家族像の制御困難	理想・希望の家族像と現実の家族像が乖離している家族が、理想の家族像に近づけるために現実の家族像をコントロールしていけない状態
□ FSS-20. 家族システムユニットストレスの過剰負荷	□ FSS-2001. 家族システムユニットストレスに起因する健康障害の発生	家族システムユニットストレスによって、家族員に心身の障害が生じている状態
	□ FSS-2002. 家族システムユニットストレスによる家族のストレス耐性力の低下	家族システムユニットストレスに家族が対処できない状態
□ FSS-21. 家族ニーズの未充足	□ FSS-2101. 家族デマンズの未充足	家族員が共有する家族デマンズが叶えられていない状態
	□ FSS-2102. 家族ウォンツの特定困難	家族ニーズが存在するが、それを満たすための家族ウォンツが特定できない状態
□ FSS-22. 変形形・派生形・追加形		

主要家族症候群 (分類コードの前半の 2 術)	家族症候分類コード (4 桁)	判定状態

使用上の注意：FSSC-JA は、研究・実践・教育を目的とする場合は、出典を引用すれば、無料で自由に使用できる。

FSSC-JA（家族症候チェックリスト）バージョン 3.4JA

法橋尚宏 神戸大学大学院保健学研究科家族看護学分野（家族支援 CNS コース）

開発歴：	July 6, 2005	1.0JA 発行
	Dec. 17, 2006	1.1JA 発行
	Aug. 24, 2007	1.2JA 発行
	Mar. 5, 2008	2.0JA 発行
	Feb. 18, 2009	2.1JA 発行
	May 28, 2009	2.2JA 発行
	May 20, 2010	2.3JA 発行
	Aug. 1, 2012	2.5JA 発行
	Oct. 20, 2020	3.0JA 発行
	Mar. 31, 2021	3.1JA 発行
	June 2, 2021	3.2JA 発行
	Sep. 18, 2022	3.3JA 発行
	Feb. 10, 2023	3.4JA 発行

2023 年 2 月 10 日 初版第 1 刷発行

発行人： 中川 清

発行所： 有限会社 EDITEX (<http://editex.jp/>)

〒 216-0033 神奈川県川崎市宮前区南平台 20-37-401

© Naohiro Hohashi

Printed in Japan

ISBN 978-4-903320-64-9

Not to be reproduced without permission. Any reference to the contents herein must cite the source.